

回覧													
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

アクティブ長洲小

長洲町立長洲小学校だより
 令和3年2月12日 第18号
 文責 校長 川富 一弘



地域の人に感謝を伝えたい

大寒を過ぎ、最も寒い時期ももう少し・・・、そんな毎日ですが、月曜から金曜まで、晴れの日の冷え込む朝も、冷たい雨の日も、毎朝校区内のいたるところに「見守り隊」の方々が立ってくださっています。本当に有り難いことだと感謝しています。見守り隊のそのほとんどの方々が退職され一線を引かれた先輩方・・・、そんな方々に支えられ、本校の子ども達は安全に登校することができます。感謝しても仕切れない立場ですが、せめて子ども達の元気なあいさつだけでもしてくれたら・・・、そんな思いですが、なかなか全員があいさつできているというわけではありません。そんな状況を受けて、今それぞれの学級が当番日を決めてあいさつ運動を行っています。下の写真は3年生の当番の日。いつもより早めに登校し、たすきをかけて登校してくる仲間へ元気なあいさつをしてきていました。「おはようございます」、「有り難うございます。」そんな大きなかけ声が飛び交う学校、そして子ども達でありたいですね。もちろん、私たち職員も率先垂範を心掛けます。



あいさつには人柄が出る

一日学校にいと、子ども達や職員、来校者とあいさつを交わすことが多く、声のトーンにその人の心持ちがよく表れていると感じます。

廊下や校庭で子ども達と会うと、私の方からあいさつをすることが多いのですが、トーンが低く、目を合わせない子供を見かけると、つい「どうした、元気がないね」と返してしまいますし、逆にこちらが元気をもらうような気持ちのよいあいさつをもらうと、内心こんなあいさつをしなければ、と自省することもあります。

また、そんなに大きな声ではなくても、その人の持つ優しさや品格を感じる所作を見ると、たった一瞬ですが人柄を感じるがあります。実に奥が深い「あいさつ」だと思いませんか。教育の場であるから敏感になっているだけかもしれませんが、だからこそ、こだわってあいさつを大切にしていきたいと思ひます。

的ばかいだご(ご正忌だご)を作ったよ

2月2日(火)の節分の日、町地域婦人会の方々のご指導の下、3年生が地域学習の一つとして、挑戦しました。「ご正忌」とは祥月命日のことを言うらしいのですが、長洲町では的ばかい(破魔弓祭)が行われる1月15日に作られていたことからこのような名前がつけられたとか。

芋は、学校園で採れた芋と購入した芋とを一緒に湯がいて作っていきました。3年生ですから包丁を使ったことがない子供もいたようで、婦人会の方々には助けていただきながらおいしいだごができました。今年は的ばかいもなく寂しい思いでいましたが、私も久しぶりに食べることができ、幼少時代を思い出しながらおいしくいただきました。婦人会の皆様、お忙しい中大変お世話になりました。ありがとうございました。



6年生、夢語る

卒業まで2カ月を切り、6年生は、卒業式に向けてそれぞれ分担して活動を始めています。

私も卒業式の式辞を考えるのに、2月1日から給食を校長室で食べながら、進路や今後のことについて3人ずつ招待して面談をしています。40名すべてを終えるのに3週間は掛かりますので、まだまだ男子が始まったばかりですが、私の予想を超えた夢を語ってくれており、とても楽しい時間となっています。以下にその一部をお知らせします。 ※男子との会食の日から引用

私 :「中学校では何をがんばりたいの？」

男子 A :「算数が苦手だから数学をがんばりたいです。」

私 :「将来どんな仕事をしたいの？」

男子 A :「プロ野球の選手になりたいです。」

私 :「どんな夢を持っている？」

男子 B :「研究者になりたいです。難病を治すことについて研究したいです。」

私 :「どんな職業を考えているの？」

男子 C :「公務員になりたいです。そして世の中の役に立つ仕事がしたいです。」

男子 D :「年俸6000万円もらえる仕事がしたいです。」

実に素直に話してくれています。そしてその子供らしさを感じられます。今の世の中、明るいニュースが少ない毎日ですが、それでも前向きに進もうとする思いや意欲を感じてうれしくなります。学校は、子ども達に夢を抱かせ、その思いを後押しする存在でなくてはなりません。この子ども達が大人になっている10年後、どんな世の中になっているのでしょうか。劇的に変わっていく今日ですが、その流れに対応してどんどん自分らしく変化し、成長しようとする子ども達を育てる学校であるために学校自身も進化し続ける必要があります。

どんな夢も応援しますし、夢は変わってもそれを尊重します。いろんな可能性を広げて今ある仕事でもいいし、新しい仕事を作り出すことだって可能です。変化に対応できる人が今からの時代に必要なのですから。

ダーウィン進化論 『種の起源』の解釈文 ※諸説あり

“この世に生き残る生きものは、最も強いものでもなく、最も賢いものでもない。

この世に生き残る生きものは、変化し続ける生きものだ ”

これを鵜呑みにするつもりはありませんが、要はこれからの社会の流れに自分なりに適応していくことなのです。コロナもそうであるし、テクノロジーの進化にしてもそうです。およそ15年前まで「スマホ」という言葉もありませんでしたし、子供からお年寄りまでスマホを持つ社会など考えられませんでした。しかし、今や必需品ですよ。このスマホを例とするテクノロジーの進化にコロナ禍が加わって、世の中は劇的に変化し続けています。親が経験したことのない世の中へ突き進んでいく子ども達、迷うこともあるだろうけれど、自分自身で決断し、社会の構成者として成長していくのですから、今のうちから夢の幅を広げ、視野を広げてやるのが大人や学校の役割ではないでしょうか。少なくとも、大人世代の感覚を押しつける子育ては結果的に子供にとってプラスにはなり得ないと思います。いかがでしょう。